

Colony Tokyo

コロニーとうきょう

Vol. **116**

2000(平成12)年
4月1日発行



社会福祉
法人 東京コロニー

〒165-0023 東京都中野区
江原町2-6-2

電話 03-3952-6166

<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートバンクギャラリー 46 作者 蔵貴信さん(詳しくはP15をご覧ください)

アジア太平洋障害者の10年
1993年～2002年

時評

「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助」に思う

常務理事 **勝又 和夫**
かつまた かずお

本年1月1日から見直し実施された「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助」については、ここ何年かの話し合いにより、私たち民間施設側としても東京都の財政事情等を考慮し、年次の漸減や3年後の本格的な見直し等を含めたものとして合意し、実施に移されたものと基本的に認識しています。しかし、基本合意後の具体的な事務説明会や個別通知の段階に入り、私たちとしては初めて聞くものがいくつか明らかになり、これらを含めた合意であったとするならば、当法人としてはそのあり方において疑問が残るとして、下記のような質問書を出させていただきました。

平成11年度分は1月1日から実施され、平成12年度分についても既に請求事務が終わっているこの段階ではありますが、疑問は疑問として質問させていただきます。今後の補助金や福祉のあり方に私どもとしてはこだわって行きたいと思っています。

国の社会福祉基礎構造改革での見直し作業も進みつつありますが、これらの福祉のあるべき姿として私は「各組織体でのアイデンティティの再確立」や「効率性や合理性の追求」、さらには「自らの福祉の価値を高め価値を生ませる」取組みも必要だと思っています。こうした取組みの一步のためにも、聞くべきことは聞いておきたいと思っています。

「東京都福祉局長宛文書」

平成12年1月25日付

平成11年度東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付決定内容に対する質問

「前文省略」

1、グループ別の算定について

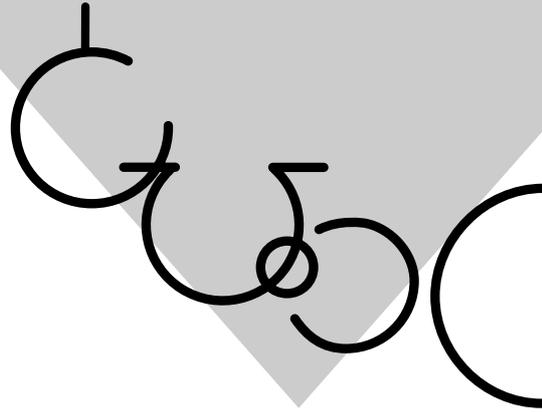
東京都の福祉施策の新たな方向として地域生活の重視を掲げていますが、当法人としましては障害者が地域で暮らしていくことを推進する目的で10年を越える期間に亘って通所利用化に取り組んでまいりました。通所化の具体的な推進策として授産利用者に住宅手当を支給するなどを実施し、また通所化にともなう措置費の大幅な減額にも耐えてきました。授産事業が地域自立にあるとの基本に立っての努力でありました。この通所化の取組みによって入所施設については通所化を奨励することにより入所定員に満たない状況を生み出していることを取上げてこれをよしとし、近年の施設開設もすべて通所施設としてきました。こうした通所化の取組みが結果として通勤交通費等の見直しで補助金の大幅な減額を招くことになりました。今回のグループ別算定においては、地域での生活を施策の方

向にするならば、このことが算定において明確に見えるものとなるべきで、東京都の施策に沿った取組みをしている施設がより大きな減額となるのは理解に苦しむところです。算定の考え方と施策との整合性についてお聞きさせていただきます。

2、規模別算定（旧職員給与と公私格差是正事業費）不支給について

これまで、当法人が公私格差是正事業費の受給申請をしなかつた理由は、これまでの制度が学歴・経験年数で自動的に決定され、能力評価が殆ど考慮されないものであり、施設の裁量を認めないことによるものでした。この度の「東京都民間社会福祉サービス推進費補助事業」の実施にあたっては施設が自主的かつ柔軟に運用できるように改善すると説明され、このことは我々のかねてからの主張が実現されたものとして喜んでおりました。しかし、新制度ではこれまで未受給であった施設については対象としないことされました。私どもはこの決定に関し、公費支弁の公平性の観点から問題があるのではないかと考えますが、問題がないと判断された理由について改めてお聞きいただきたいと思います。

以上



青葉ワークセンター

お餅つき

例年のお餅つきが1月6日に、当事業所で行われました。当日は天気予報に反し、空も午前中は笑顔を見せてくれました。準備ができて先を争うようにみんな集まってきました。臼の前には自然と輪ができて、「ヨイシヨ」のかけ声が始まりました。一人一人重い杵を上げ下げし、寒さにもかかわらず皆さんの額には汗がいつばい出ています。次第に気持ち



が杵にこもり、いきおい余って、いつのまにか杵にはヒビが入る始末です。それでも1年の始まりの思いを込めて一生懸命の顔が明るく微笑んでいます。当日は調理長も特別出演、小川所長とともに気合の入った腕さばき、昔とった杵柄でしょう。和気藹々の3時間も終わりさらに楽しみの昼食、何はともあれおいしいお餅に大根おろし・きなこ・納豆をあえて昼食にはお腹も満足になりました。ご協力していただいた方々に感謝の気持ちをごめて、さて私達は始動開始です。いつもの時が流れ始めました。新たな1年にそれぞれの思いを込めて皆さんがんばりましょう。

大森 由紀子

中野工場

トライアル雇用で 就職決定！

「今は親の扶養ですが、65歳で父親も退職するので、何とか雇用関係をつなぐ身分を安定したものにしたいと思います」と、面接で聞いたH氏の切実な思いでした。H氏は38歳、脳性麻痺による両上肢機能障害2級、コロナー印刷所の授産利用者となつて5年の時が流れていました。

H氏の願いをなんとか実現できない

いものかと思っていた矢先に、「障害者緊急雇用安定プロジェクト」(以下、トライアル雇用と呼ぶ)の存在を知りました(*1)。そして、中野区にある障害者事業団から、「某病院がトライアル雇用に登録していて、PCが使える人を探しているのですが、どなたかいませんか？」と問合せがありました。さっそくH氏に伝えましたが、コロナーの気の合った仲間の存在と自分が去つた後のコロナーを考えると心は揺れ動いていました。H氏はコロナーにとつてもMACDTPのオペレーターとして戦力となつていたので、H氏が抜けることによる痛手は大きいことは確か。悩んでいたH氏に対し上司からも「せつかくの機会だからチャレンジしてみたら」と後押ししてくれたことで、H氏の迷いは消えました。

H氏は民間企業で働いた経験があり、技術力があり通勤やコミュニケーションの問題も殆どなかったこと、事業主も障害者の雇用に理解があり、障害者事業団の協力も得ながら、全てが順調に動き出しました。昨年の9月から始まり、1ヶ月の実習期間を終え、次の3ヶ月のトライアル雇用も順調に進み、4ヶ月後は正式採用という形で希望どおり就職することができました。

施設は利用者の一人ひとりのニーズを把握し、できる限りそのニーズに沿った支援をしていくことが役割

です。だからこそ、利用者の一人ひとりが、施設利用の目的意識を持つことが大切なことだとH氏の事例を通して改めて感じました。「願いは通じ叶う！」ことを信じたいと思います。

***1 障害者緊急雇用安定プロジェクト(トライアル雇用)**

労働省では、障害のある方を対象とした「障害者緊急雇用安定プロジェクト」を実施しています。これは、厳しい雇用情勢の中で、障害のある方の職場実習や雇用機会の創出を目的としたトライアル雇用(短期間限つき雇用)を日経連に委託・実施している支援策です。事業主も実習生も一定の収入を得ながら職場での適応力を高めていけるので、非常に実践的であり終了後引き続き雇用の可能性も期待できます。このプロジェクトは、平成12年3月末までの実施でしたが、平成13年度も引き続き実施されます。詳細は以下にお問い合わせ下さい。

事業主の方：
日経連障害者雇用緊急支援センター
03・32213・4485

求職者の方：
ハローワーク(職業安定所)へ

ケースワーカー 小川弘子



情報処理センター

「全体研修会」

1月8日、調布市文化会館たづくりにおいて3部構成による全体研修会が行われました。

健康診断に始まり、引き続き勝又所長による福祉基礎構造改革をふまえた東京コロナーの現状についての講話がありました。今回はパワーポイントで作成した資料を用い、プロジェクトにより視覚的にも今までの研修とはひと味違ったものを感じることができました。

休憩時間には囑託医石神先生にご指導いただいたストレッチでリフレッシュし、最後は場所を移して懇親会が行われました。

普段、あまり会う機会のない調布・府中・狛江の方達にもお会いすることができ、とても中味の濃い一日でした。

総務課 清水元治

東村山工場

「雛祭り」

春と言えば、卒業式、入学式、お花見などなど、いろんな春を連想しますが、今回は「女の子の節句・お雛祭り」を選んでみました。

「ひなまつり」の「雛」とはもともと雛形のこと、人間の雛形を意味します。古来の人々はその雛形に自分の病やけがれを移すことで、襖被いをしていました。その人形を川に流したことが、雛祭りの始まりと言われています。



その後、「ひいな」と呼ばれた人形は、平安時代には、貴族の子供たちの遊び道具となつて、江戸時代に伝えられ「雛人形」が生まれました。

東村山工場では、桃の節句にちなんで、昼食は「雛ちらし・菜の花のお浸し・蛤のお吸物」と、春らしいメニューを組み、3時の休憩時間には、桜餅や鶯餅などを用意し、春の季節感を存分に堪能しました。

「お雛様」は色々な姿で古来の人々から現代まで伝わって来ましたが、次の桃の節句には、違った角度から「お雛様」を眺めてみてはどうでしょうか。

栄養士 宮下 まゆみ

法人本部

1999年度福祉講座

昨年12月3日に中野サンプラザ8階研修室において1999年度福祉講座が開催されました。

内容は講演2題で構成され、始めに東京都労働経済局産業政策担当部長の木谷正道氏に「東京都の課題と福祉の方向」と題して、東京都の政策立案に携わっておられる氏の視点でお話いただき、それを受けて当法人の勝又常務理事が「社会福祉基礎構造改革と東京コロナー」と題して、民間社会福祉事業を取り巻く社会環境の変化に対する考え方や、我々の課題について語られました。

講演1 木谷 正道 氏

木谷氏は都新宿西清掃事務所長時代に「早稲田周辺商店会とのリサイクルまちづくり」を積極的に推進され、この取組みの中から乙武洋匡さん（「五体不満足」）や安井潤一郎さん（「スーパードアやじの痛快まちづくり」）といった方々や当法人のトーコ情報処理センターとの交流が生まれました。

講演は、「東京都産業振興ビジョン」の策定にあたり新しい取組みと

して、広く都民からインターネット等を通じて政策提案を「チャレンジプロジェクト」として募集した経緯や途中経過について「中間のまとめ」として作成した資料とともに、パソコンを使ってプロジェクトに画像を映し出しながらのお話で、さながら「プレゼンテーション」といった趣で進められました。

「チャレンジプロジェクト」に寄せられた都民からの政策提言は、11月末の時点で110件を越えていましたが、一つ一つの提言はその提言者がプロジェクトの主体となるもので、まさに住民参加型の施策です。

都民の自発的な意志による産業振興を都がバックアップすることで、地域力を高めるという意図で考えられたこの産業ビジョンにかかせないのがインターネット技術ですが、メールングリストによる情報の共有化が「知恵と力集めの装置」として機能している実証例として、例えば早稲田商店街で年間6千通、多摩NPOでは年間4千通のメールが飛び交い大きな役割を果たしています。

木谷氏は様々な政策提言に対し、これをチャレンジプロジェクトとして成立させるアドバイスやコーディネートをするともに、必要に応じてメールングリストを提供して支援しています。

そして、このプロジェクトの成功事例の中には福祉分野もあり、地域

の活性化が福祉の増進にも繋がることや、地域振興という視点での福祉事業の活性化が現実的なものとして提示されました。

IT（情報技術）を媒介として、これまでにない地域コミュニケーションをつくり、住民参加型の地域振興や福祉課題への取組みを実証しようとする氏の熱意に感動させられるとともに、既成概念にとらわれない氏の発想に多くのものを学ばせていただきました。



左 勝又常務、右 木谷正道氏

講演2 勝又 和夫 常務理事

この講演では、先ず東京コロナーの現況についての説明があり、その上で経済動向が社会福祉事業に与える影響について、さらに国や都の制度・施策が法人運営に与える影響に

ついて、74頁にわたる資料を基に包括的な認識を示されました。

当法人は障害者368名、総人数680名で年間総予算89億7千万円の事業を行っていますが、われわれの事業は社会的な要因によって大きな影響を受けるものでもあります。

国全体で600兆円を越える財政赤字を抱え、いまだ回復基調にならない経済状況から、様々な規制緩和策が採られ、競争原理による効率性・合理性を求める基本的な潮流があり、これが行政の制度・施策においては、都が「民間社会福祉施設に対する補助金の再構築」を打ち出し、国は社会福祉基礎構造改革や省庁統合による厚生労働省下での授産事業についての厳しい見方など、いずれも福祉事業が「自助努力」によってより効率的に運用されることや、結果（費用対効果）を求められてきています。

こうした動向を、むしろ前向きに捉えて、これまでやって来た事業型の施設経営をさらに押し進め、補助金に頼らないためにもその体質を企業型に変えていく努力をしながら、利用者第一主義を貫き「人の温かみ」が伝わる「事業を指して行くこと」。そのためには、従業員皆が知恵を出し合い連帯していくことが重要と考えていると締めくくられました。

法人本部 下田 尚登

平成11年度中央セルブセンター

印刷部会技術指導研修会報告

大田福祉工場 所長 今西 康二

【はじめに】

2000年2月3、4日の両日東京有明の有明ワシントンホテルにおいて、全社協・中央セルブセンター主催により印刷部会技術指導研修会が開催されました。「印刷業の明日を考える 全国の仲間の連携による新たな可能性を探る」というテーマで、年間総売上額が3千万円以上の本格的に印刷業を営んでいる施設の職員を対象として、第1日目には講演と実践報告があり、第2日目には3グループに分かれての分科会と印刷部の会議が行われました。

【基調講演】

まず最初の講演では、日本プリンティングアカデミー学校長の濱輝彦先生より「これからの印刷業 デジタル化時代の事業革新と“人材”育成」と題してお話いただきました。印刷業を取り巻く環境の変化をコミュニケーション新時代（情報ビッグバン）と捉え、デジタル技術の進歩と市場の縮小と変化・多様化という面から分析され、現在の印刷業が「印刷業・情報加工業」に偏重し

ぎでありこれからは「コミュニケーション（メディア）のお世話産業」への原点回帰（新ルネサンス）と進化が重要であって、その点で、事業の方向性の確立と、人材に注目する必要があると話されました。

さらに印刷産業の新しい方向性として、具体的には従来の加工業の体質からコミュニケーション・メディアの総合支援という事業に変化していくべきで、企業の消費者とのコミュニケーション活動という重要な部分でのメディアの選択や新グラフィックの提案等の支援サービスを目指すべきであるとされました。

単にハード・ソフトウェアを装備するのではなく、得意先の事業目的とその成果を認識した上でソフトウェア（思考技術）重視に変えていくことであり、より高度なサービスの提供ができなければならないということです。私自身が思ってきた変化の幅を、さらに現実は大きく越えているように感じられ、認識を新たにさせられる講演でした。

【実践報告】

実践報告では当法人の東村山工場の中村製造部長より「デジタル化への歩み」と題して、東村山工場で実際に行的われてきたことや現在取りかかっていることまで、単にデジタル化という範疇に止まらず事業運営の重要な部分も含めて報告されました。内容としては1995年度からのDTPの導入を軸に、工場の全体の状況や市場の変化と関連付けながらデジタル化にどう取り組んできたかを、豊富な資料とデータで補足し分かり易く解説されました。

参加施設の中には、まだ本格的な導入までいっていない施設も多く、示唆の多い報告であったと思われる。

【分科会】

2日目の分科会は、3グループそれぞれ「技術革新への対応」「受注の維持・拡大」「コストダウンへの可能性」と題して、参加者が日常の中で抱える具体的な問題点を出して話し合われました。時間的に余裕がなく議論を深めるまでには至りませ

んでしたが、共通の課題もいくつか出され、同一地域内での新しい連携の可能性についても話題となり、活動の端緒作りの場となったように思います。

印刷部会の会議では、今後の印刷部会でどのような活動を行っていくべきか話され、研修会の継続とメンバーングリストの設置を決定しました。また部長・副部会長の選任については、それぞれ東村山工場の武所所長と宇品印刷授産場の田原施設長の就任が決まり、活動の継続の任についていただくことになりました。



基調講演の様子

今回の研修会はゼンコロが主体的に関わり、多忙の最中にも関わらず、非常に内容盛り沢山で有用な研修会としていただいたことに対し、その労に感謝するとともにお礼をのべたいと思います。

ゼンコロ

第2回 知的・精神障害者問題研修会

知的・精神障害者の地域生活を進めるために

中野工場 副所長 星 忍

第二回ゼンコロ知的・精神障害者問題に関する研修会が、和歌山市で開催されました。今回の研修会は「地域生活」をキーワードに、麦の郷常任理事伊藤静美氏と、北海道伊達市地域生活支援センター所長小林繁市氏による二つの講演と、麦の郷の見学を中心に行われました。

「麦の郷」が地域住民の自慢
 「精神障害をもった方との接し方をよく聞かれます」という話から伊藤さんの講演は始まりました。「素人でいいんです。普通に話しかけて下さい。ただ個性をみて接して下さい。医師、看護婦、保健所といった専門家は情報をもつていても当事者の立場になつてなかなか考えてはくれない。周囲の手助けがあれば入院せずそれまでの地域での生活が続けられるのです。」

自分がいやなことは他の人も嫌だろう、そういう気持ちでその人の生活を考えていくことが当たり前の人權感覚だと思ふ。周囲の人が当事者の話を聞く少しの忍耐とあたりまえの人權感覚があれば、専門的な知識がなくても障害のある人とともに地域で暮らしていける。確かに地域の偏見は根強く、恐い存在ではあつたけれど、地域に支えられ育てられてもきた。地域住民に理解してもらつたために自分達の地域への貢献を常に問いかけながら運動を進められた。麦の郷は精神障害者問題の先駆的

な取り組みだけではなく、高齢者や不登校児など住民の様々なニーズに对应、実現してきた。

ハンディのある部分は社会が支え、本人に働く意欲があれば、自己実現ができる。お金（給料）が何よりも薬になる。そのために職員は多様な職場を用意し、その人にあつた仕事を選択できるように考えてやってきた。その結果、麦の郷が地域住民の自慢となる存在になつていったのだと思ふ。

翌日の麦の郷の見学では、「麦の郷がなければこの人はいまだに入院をしていただろう」という利用者の方が「麦の郷があつてよかった。仲間と一緒に毎日楽しくやっています。」と私たちの前で堂々と話をされました。施設を出て町に暮らす

小林氏からは、知的障害をもつ人たちの地域生活援助についてお話しいただきました。



麦の郷にて、伊藤氏（右）と利用者（左）

知的障害者の多くは、何らかの生活支援がない限り一人で生活することは困難である。視力の弱い人が生涯がねを必要とするように、知的障害者のある人はその人にあつた地域支援があれば地域で暮らすことができるのである。一方、親にとつては根強い施設幸福論がある。しかし、町へ出て安心できる条件を作つていくことで親の理解も広がつていった。「どこへ行つても一生面倒を見る」ということを担保すると、本人の希望どおりにしてやつてほしい、と家族も変わる。本人たちは皆施設を出たいと思つているのである。

伊達市では地域生活支援センターが中心となり、住宅の確保や、必要に応じた援助の体制をとつている。一日二時間から二十四時間まで用意している。また、就労の場の確保も重要で、町の中小の企業の理解を広げ就職先を増やしてきた。

能力のある障害者を授産に止めない、そのための職場開拓を進め、地域へ出てからの仕事や生活面でのアフターフォローを保証し孤立させないことが職員の役割である。

小さな町に二〇〇人も障害者が集中していることはけつしてノーマルでないことも小林氏はおつしやつていた。

そうした実践を続けた結果が今の伊達市であり、年間三千人もの見学者が訪れる所以である。

2000年度 事業計画予算策定

1、はじめに

中央社会福祉審議会は、昨年9月30日に「社会福祉事業法等一部改正法案要綱」（社会福祉増進のための関係法律の整備等に関する法律案（仮称）制定要綱）について諮問案どおり了承する答申を厚生大臣に提出しました。これを受けて、厚生省は法案を第147回通常国会に議案上程しその成立を期しています。これに先立つて、介護保険法は本年4月に様々な問題点を残しながらも実施されました。このように、「社会福祉基礎構造改革」を具体化するための法の整備は着々と進んでおり、厚生省は措置制度から利用契約制度への転換となる「措置費」から「支援費支給方式」への変更を平成15年4月1日に実施することとしています。

東京都はこれまでの支援費を大幅に見直し、本年1月1日には「民間社会福祉施設サービス推進費補助事業」として実施しました。実施初年度において平均10%の減額になるとの事前の説明に対し、入所を偏重した結果として通所化を図りつつある当法人にとっては20%をこえる大幅な減額となり、施策の方向にあるべき論がみえないままに毎年減額されていく見込みとなっております。

一連の改革の方向としては、社会福祉法人の自主性や自由裁量を認める動きを見せているものの、一方において国全体で650兆円もの財政

赤字を抱えていることから、給付型の福祉見直しと市場原理による効率的な福祉サービスの提供を求め始めているのがその実際であるといえます。こうした中であつて私たちのスタンスとしては社会福祉の諸施策の方向がすべての障害者が地域社会の中で自立した生活が送れるものとなつていくようにさらに覚悟をもつて運動していく必要があります。全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、日本障害者協議会、社団法人セゾンコ口等における当法人の役割を本年度も積極的に行なうこととします。

わが国の経済は、金融システムに対する信頼の低下や雇用不安などを背景に厳しい状況が続いています。政府の赤字国債による景気浮揚策と各種の規制緩和による経済の構造改革を促した結果として、平成11年度の名目GDP成長率は-0.4%（見込み）で、平成10年度の-2.0%という急激な下降局面から辛うじて脱することとなりました。本年1月の閣議決定では「我が国経済は、民需の回復力が未だ弱く、厳しい状況をなお脱していないものの緩やかな改善をしている。」（平成12年度の経済見通しと経済運営の基本的態度）として、平成12年度の経済運営の目標として官需から「民需主導の本格的景気回復の実現」を掲げることとしています。しかし、経済の実態として

はアジア諸国の景気回復等海外情勢の好転を受けた輸出の増勢を主因とする製造業の生産増に片寄つた経済状況に止まっている実情から、我が国経済が民間需要に支えられた自立的回復に至る道筋は、なお険しいという状況にあるといえます。

こうした経済状況にあつて、当法人の主力事業である印刷業は社会の情報化に伴うEIT（インフォメーションテクノロジー）革命や循環型社会への関心の高まりにより紙媒体の印刷物出荷額が年々減少しており、産業構造そのものの転換を迫られている状況にあります。各工場毎にデジタル化への取り組みを推進する一方、経営の見直しを実施しつつあるものの、受注の冷え込みが激しく、事業所別というより三工場トータルとしての印刷業そのものの体質改善が喫緊の課題となつてきています。こうしたことから本年度より印刷事業本部の体制を見直し、日常的には三工場トータルとしての印刷業として事業の再活性化を図る執行体制とすることとしました。

情報処理事業は、定款に定める公益事業を再編・統合して発足させるIT事業本部において効率的な運営を図るとともに、デジタル化社会に備えてより先進的な分野に踏み込んだ事業展開を図ることとしています。

縫製・製袋・防災・安全用品等製

3. 補助事業および施設・設備等整備事業

(1) 施設・設備等整備以外の事業に関する補助事業

① 本年度は次の事業を計画し、各方面にご援助をお願いします。

申請先	事業内容	補助申請額
東京都	重度障害者在宅パソコン講習事業 (トーコロ情報処理センター)	6,500千円

② 東京都に対して、次の東京都大田福祉工場の施設および機器等の整備について要望し、協議します。

申請先	事業内容	補助申請額
東京都	ウィンドウズDTPシステム一式 (東京都大田福祉工場)	5,300千円
	マックDTPシステム一式 (東京都大田福祉工場)	5,000千円
	オンデマンド・カラーシステム一式 (東京都大田福祉工場)	7,000千円
	CIDフォント(25書体)一式 (東京都大田福祉工場)	10,000千円
	フラットベッド・スキャナー一台 (東京都大田福祉工場)	8,000千円

③ 三菱商事株式会社環境室様に、引き続き就労支援のための援助をお願いします。

(2) 施設・設備等整備事業に関する補助事業

本年度は次の事業を計画します。

申請先	内容	補助申請額
東京都共同募金会	備品整備事業 (コロニー中野)	200千円
	備品整備事業 (コロニー印刷所)	150千円
	備品整備事業 (コロニー東村山印刷所)	150千円
	備品整備事業 (コロニー東村山)	100千円
	備品整備事業 (コロニー青葉ワークセンター)	100千円
	備品整備事業 (コロニー青葉第二ワークセンター)	100千円
	備品整備事業 (コロニー青葉第三ワークセンター)	100千円

(3) 自己資金による施設・設備等整備事業

本年度は次の事業を計画します。

施設名	内容
コロニー印刷所	RIPバージョンアップ他 (予算額 14,000 千円)
	Windows PC他 (予算額 5,820 千円)
	イメージセッター (予算額 12,000 千円)
	平型殖版機一式 (予算額 4,819 千円)
	自動見当合わせ装置一式 (予算額 3,860 千円)
	四六四裁単色機一式 (予算額 8,610 千円)
東京都大田福祉工場	ネットワークシステムの整備 (予算額 6,000 千円)
	ネットワーク関連ソフト (予算額 3,000 千円)
	DTPシステムの更新 (予算額 5,000 千円)
	電話システム (予算額 2,000 千円)
コロニー東村山印刷所	PCなどの更新、増設 (予算額 3,900 千円)
	ソフトウェア料 (予算額 2,100 千円)
	修理等 (予算額 4,400 千円)

造販売事業はトータルとしては黒字基調で推移していますが、依然として防災部門への依存体質から脱しきれない現状にあり、本年度もその改善に目処をつけるべく事業を推進することとしています。

メールサービス事業は、前年度に明らかとなった急激な事業体質の低下の改善を図る年度としています。

懸案事項である生活施設は、第一号の生活寮が定員を充足し経営が安定したことにもない、第二号の生

活寮の開設に向けた検討を本格化させるとともに、各施設における生活施設への課題に対し、本年度も目的毎の小委員会を設け取り組むこととします。

福祉分野の変革の中で、同じ目的を持つ他の社会福祉法人との協力や連携を強化するため可能な限り社会的な役割を担うことにより、新たな連帯の輪を広げて行くこととします。

2、各事業の基本方針

(1) 法人本部

法人全体の全般的諸問題の処理、各事業所の運営を事業計画に沿って確実に行うために必要な実務を行ないます。また、法人全体の事業運営の円滑化と中・長期的な課題を検討・推進するため、各事業所長や総務責任者(会議)と日常的に連携をとりながら活動することとします。

法人全体の運営管理の充実や事業所間の連絡・最新情報の伝達・共有

等のために独自のサーバーを保有し、通信ネットワークの充実と活性化にも努めます。また、障害者問題全般についての情報収集と提供を行い、タイムリーに福祉講座を開催するなど、課題解決のために必要な活動を行うこととしています。

本年度より新設する新事業開発室は、デジタル化・ネットワーク化の中での新事業・新職域の開拓や法人ビルの再活用、また中野区内における新施設設立の検討をおこないま

総括損益推移表

(単位：千円)

		1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度
1. 法人本部(含 生活施設)	決 算	16,051	24,821	25,695	4,524 *	20,954 *	2,781
	損益累計	31,271	56,092	81,787	86,311 *	107,265 *	110,046 *
2. IT事業本部計 *2000年度より	決 算	△ 12,872	2,429	431	5,843 *	11,721 *	4,532
	損益累計	9,731	12,160	12,591	18,434 *	30,155 *	34,687 *
(1)事務局	決 算	-	-	-	- *	- *	235
	損益累計	-	-	-	- *	- *	235
(2)デジタルメディア7(含アトバンク)	決 算	△ 12	△ 670	△ 4,112	1,013 *	11,677 *	3,437
	損益累計	8,436	7,766	3,654	4,667 *	16,344 *	19,781 *
(3)トコ情報処理センター・事業部	決 算	△ 12,860	3,099	4,543	4,830 *	44 *	448
	損益累計	1,295	4,394	8,937	13,767 *	13,811 *	14,259 *
(4)トコ情報処理センター・職能開発室	決 算	-	-	-	- *	- *	412
	損益累計	-	-	-	- *	- *	412
3. 印刷事業計	決 算	△ 163,053	△ 115,416	△ 153,736	△ 143,222 *	△ 41,678 *	29,079
	損益累計	△ 408,590	△ 524,006	△ 677,742	△ 820,963 *	△ 862,641 *	△ 833,562 *
(1)一般会計(含 カラセンター) *カラセンターは97年まで	決 算	△ 7,419	△ 18,988	△ 31,841	17,997 *	14,106 *	15,904
	損益累計	△ 34,220	△ 53,208	△ 85,049	△ 67,052 *	△ 52,946 *	△ 37,042 *
(2)コロナー中野・印刷所	決 算	△ 80,490	△ 63,803	△ 80,813	△ 99,898 *	△ 59,040 *	0
	損益累計	△ 144,820	△ 208,623	△ 289,436	△ 389,334 *	△ 448,374 *	△ 448,374 *
(3)コロナー東村山印刷所(含 コロナー東村山)	決 算	△ 3,059	842	1,676	△ 34,500 *	1,179 *	13,175
	損益累計	△ 98,532	△ 97,690	△ 96,014	△ 130,514 *	△ 129,335 *	△ 116,160 *
(4)東京都大田福祉工場	決 算	△ 72,085	△ 33,467	△ 42,758	△ 26,820 *	2,077 *	0
	損益累計	△ 131,018	△ 164,485	△ 207,243	△ 234,063 *	△ 231,986 *	△ 231,986 *
4. トコ青葉ワークセンター(含 第二・第三)	決 算	140	4,107	342	1,753 *	△ 20,785 *	9,725
	損益累計	△ 12,745	△ 8,638	△ 8,296	△ 6,542 *	△ 27,327 *	△ 17,602 *
5. 東京都葛飾福祉工場	決 算	1,106,526	425,801	74,609	15,594 *	35,800 *	38,227
	別途積立		△ 1,200,000	500,000	100,000	0	0
	損益累計	823,865	49,666	624,275	739,869 *	775,669 *	813,896 *
合 計	決 算	946,792	341,742	△ 52,659	△ 115,508 *	6,012 *	84,344
	別途積立		△ 1,200,000	500,000	100,000	0	0
	損益累計	443,532	△ 414,726	32,615	17,108 *	23,120 *	107,464 *

* 見込額

す。ナイスハートショップ・パレット事業への協力や東京都社会福祉協議会(東京都セルブセンター)や足立肢体不自由者福祉会に対しても当法人としての社会的な役割の発揮の観点から本年度も引き続き支援・協力します。

IT事業本部・印刷事業本部は新事業開発室とも連携させながら関係事業所に役割がはたせるように運営します。

生活施設委員会は法人本部で掌握し、5年目を迎える「国分寺戸倉(生活)寮」の運営の安定化を図るとともに、第二号となる生活寮の具体化や、目的毎に設置される小委員会を統括します。

(2) IT事業(IT事業本部/デジタルメディアセンター・トコ情報処理センター事業部・トコ情報処理センター職能開発室・障害者アトバンク)

情報処理事業は本年度より関連事業本部の廃止とトコ情報処理センターの機能分割によりIT事業本部を廃止させ、再編統合することとし、我が国のIT(インフォメーション・テクノロジー)をキーワードとする産業構造の変革に対応できる事業体として先制的で柔軟な取り組みができる組織として運営することになります。

また、従来からの教育訓練事業や在宅就労事業、さらには市からの委

総括予算書

(単位 千円)

	費用の部			収益の部		
	科目	前年度予算	本年度予算	科目	前年度予算	本年度予算
法人本部		164,490	205,920		164,490	205,920
法人事務局	費用	164,490	159,490	収益	164,490	159,490
新事業準備室	費用		46,430	収益		46,430
生活施設	費用	8,352	8,112	収益	8,352	8,112
IT事業本部合計		542,160	569,571		542,160	569,571
事務局	費用		21,230	収益		21,230
デジタルメディア	費用	175,518	201,200	収益	175,518	201,200
障害者アトバノク	費用	35,900	31,450	収益	35,900	31,450
トコ情報・事業部	費用	330,742	284,521	収益	330,742	284,521
トコ情報・職能開発	費用		31,170	収益		31,170
印刷事業合計		3,776,479	3,539,498		3,740,234	3,539,498
一般会計	費用	34,392	23,499	収益	34,392	23,499
コロナ-中野・コロナ-印刷所		1,277,337	1,210,489		1,241,092	1,210,489
	製造費	929,952	863,858	売上高	1,100,000	1,050,000
	販売費	209,315	206,502	委託事務収入	89,098	88,144
	一般管理費	111,507	112,174	委託事業収入	19,763	19,255
	委託事業費	19,763	19,255	社会授産収入	28,981	50,040
	事業外費用	6,800	8,700	事業外収益	3,250	3,050
コロナ-東村山印刷所		974,595	915,300		974,595	915,300
	製造費	706,235	653,165	売上高	860,000	800,000
	販売費	149,200	150,760	委託事務収入	93,690	93,725
	一般管理費	73,440	75,170	委託事業収入	20,005	20,695
	委託事業費	20,005	20,695	事業外収益	900	880
	事業外費用	4,880	4,880			
	予備費	20,835	10,630			
コロナ-東村山		91,855	121,960		91,855	121,960
	製造費	27,420	61,625	売上高	32,120	66,260
	一般管理費	53,675	50,000	委託事務収入	51,925	47,790
	委託事業費	7,515	7,610	委託事業収入	7,515	7,610
	事業外費用	180	180	事業外収益	295	300
	予備費	3,065	2,545			
東京都大田福祉工場		1,398,300	1,268,250		1,398,300	1,268,250
	製造費	1,100,800	1,018,440	売上高	1,300,000	1,170,000
	販売費	175,200	166,660	委託収入	85,000	86,000
	一般管理費	80,500	81,350	事業外収益	13,300	12,250
	事業外費用	3,800	1,800			
	予備費	38,000	0			
(大田工場宿舍会計)	費用	30,300	27,700	収益	30,300	27,700
トコ青葉第一ワークセンター		227,083	110,090		227,083	110,090
	製造費	144,610	38,380	売上高	151,090	41,675
	一般管理費	57,553	56,615	委託事務費収入	57,553	54,395
	委託事業費	17,190	12,555	委託事業収入	17,190	12,555
	事業外費用	7,030	265	委託収入	1,250	1,465
	予備費	700	2,275			
トコ青葉第二ワークセンター		88,145	188,460		88,145	188,460
	製造費	17,090	127,055	売上高	17,090	124,325
	販売費	0	25,215	委託事務費収入	57,360	55,205
	一般管理費	57,360	19,660	委託事業収入	10,755	8,730
	委託事業費	10,755	8,730	事業外収益	2,940	200
	事業外費用	2,940	350			
	予備費	0	7,450			
トコ青葉第三ワークセンター		56,640	47,280		56,640	47,280
	製造費	11,310	17,615	売上高	17,500	11,615
	一般管理費	42,970	23,730	委託収入	34,880	29,840
	委託事業費	0	5,700	委託事業収入	0	5,700
	事業外費用	2,360	235	事業外収益	4,260	125
	予備費	0	0			
東京都葛飾福祉工場		4,143,757	4,185,353		4,143,757	4,185,353
	仕入高	2,572,236	2,620,300	売上高	4,025,330	4,059,520
	製造費	1,098,147	1,105,061	委託事業費収入	98,427	98,833
	販売費	320,302	302,007	事業外収益	20,000	20,000
	一般管理費	98,262	100,758	特別会計	0	7,000
	事業外費用	19,000	19,000			
	予備費	35,810	38,227			
(葛飾工場宿舍会計)	費用	28,599	28,800	収益	28,599	28,800
合計		9,007,106	8,854,284		8,970,861	8,854,284

* 前年度予算貸借の不一致は中野工場期中損益36,245千円のマイナスである。

在籍者の推移

自1997年4月1日 至1998年3月31日 (単位:人)

	年度初日 在籍者数	期中増減		法人内異動を除く主な減員理由			年度末 在籍者数
		増員	減員	自己都合	転勤など	疾病、その他	
雇用就労者	157	12 (6)	20 (4)	10	4	2	149
授産施設の利用者	180	13 (0)	14 (0)	13	0	1	179
パート等	16	1 (0)	4 (2)	0	2	0	13
訓練生等	28	9 (0)	5 (0)	0	4	1	32
障害をもつ就労者計	381	35 (6)	43 (6)	23	10	4	373
障害をもたない就労者	335	47 (18)	61 (18)	29	9	5	321
合計	716	82 (24)	104 (24)	52	19	9	694

(注) 1) () 内の数字は法人内異動をあらわします。
2) 年度末在籍者数に非常勤嘱託医6名は含まれていません。

自1998年4月1日 至1999年3月31日 (単位:人)

	年度初日 在籍者数	期中増減		主な減員理由			年度末 在籍者数
		増員	減員	自己都合	定年・期間満了	疾病、その他	
雇用就労者	152	18 (11)	25 (12)	6	3	4	145
授産施設の利用者	179	21 (5)	14 (4)	3	0	7	186
パート等	12	1 (0)	2 (0)	2	0	0	11
訓練生等	32	7 (0)	5 (0)	1	0	4	34
障害をもつ就労者計	375	47 (16)	46 (16)	12	3	15	376
障害をもたない就労者	319	58 (20)	66 (20)	30	15	1	311
合計	694	105 (36)	112 (36)	42	18	16	687

(注) 1) () 内の数字は法人内異動をあらわします。
2) 年度末在籍者数に非常勤嘱託医6名は含まれていません。

自1999年4月1日 至1999年9月30日 (単位:人)

	年度末 在籍者数	期中増減		主な減員理由			上期末 在籍者数
		増員	減員	自己都合	定年・期間満了	疾病、その他	
雇用就労者	142	5 (1)	5 (1)	4	0	0	142
授産施設の利用者	186	15 (3)	7 (2)	5	0	0	194
パート等	13	3 (2)	2 (0)	2	0	0	14
訓練生等	34	6 (0)	22 (1)	0	0	21	18
障害をもつ就労者計	375	29 (6)	36 (4)	11	0	21	368
障害をもたない就労者	312	6 (1)	6 (1)	5	0	0	312
合計	687	35 (7)	42 (5)	16	0	21	680

(注) 1) () 内の数字は法人内異動をあらわします。

託事業等をそれぞれの事業目的に沿って確実に実行するとともに、有料職業紹介事業についても在宅する重度の障害を持つ人たちの就労支援の立場から推進していくことにします。

障害者アートバンク事業はより一層登録作家への所得支援活動が充実するよう取組んでいきます。

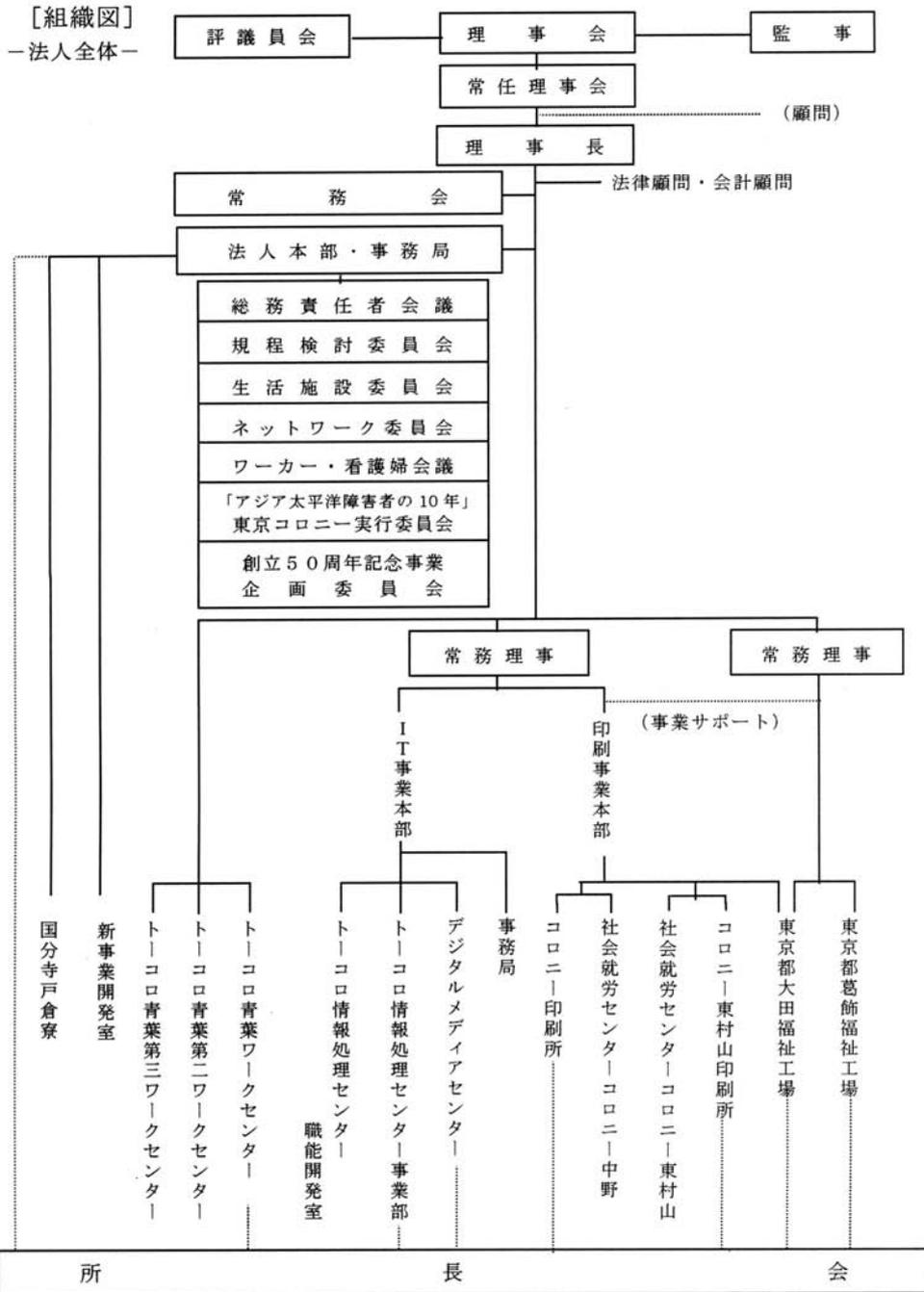
(3) 印刷事業(コロナー中野、コロナー印刷所、コロナー東村山印刷所、コロナー東村山、東京都大田福祉工場)

印刷事業の業績不振は前年度に若干改善を見ましたが、依然として厳しい状況が続いており、三工場とも中期計画を大幅に下回る売上高の減少を見込んだ厳しい予算とせざるを得ませんでした。本年度は印刷事業本部として印刷業としての営業・製造機能の日常的で有機的な繋がりが図れるよう体制の見直しを行ない、経営効率を上げる諸施策とともに、将来を展望するため一層のデジタル化対応や循環型社会への対応としてのISO認証等に積極的に取り組んでいくこととしています。

いずれにしてもこの年度をもって経営改善の見通しが得られるよう各工場の経営状況の把握に努め、迅速な対応を図っていくこととします。

(4) 縫製、製袋、防災、安全用品等製造販売事業(東京都葛飾福祉工場)縫製部門は、赤字削減のために生

在籍者の推移



産効率の悪い小ロットの受注を減らし、大口の受注を安定確保するよう営業展開を推進します。そのために、東京都関連の受注拡大を図ります。

製袋部門は価格競争がさらに激化することが予測されるため、一層の売上増と機械設備による内製加工の強化を図るとともに、封入封緘事業の技術の向上と営業活動を推進して行きます。

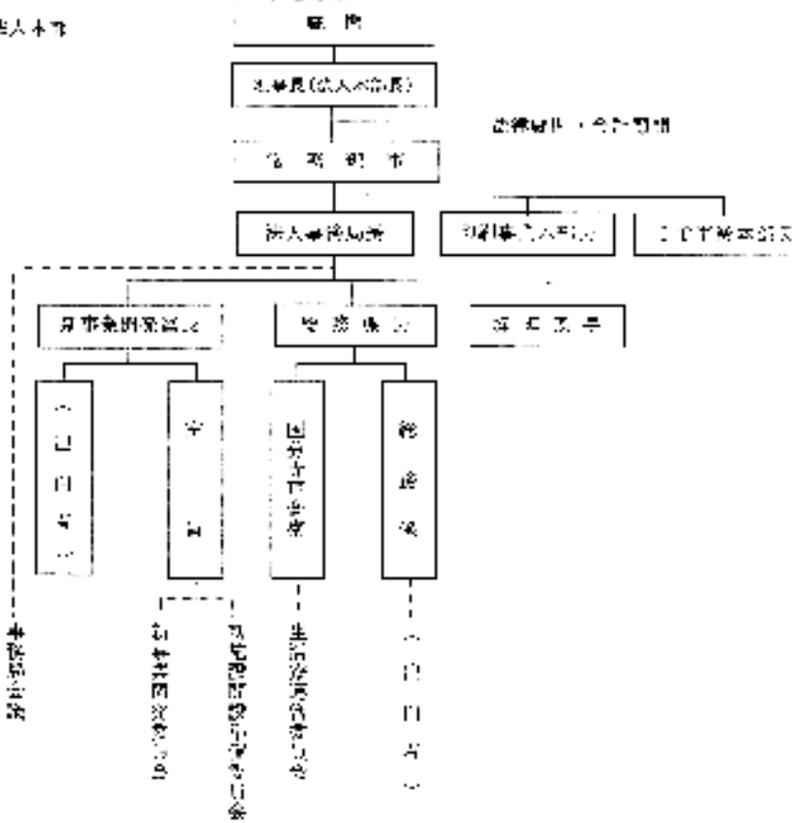
防災・安全用品等製造販売事業は順調に遂行されていますが、当部門の売上を維持するため、国・特殊法人・地方公共団体・大学・私立高等学校に対する営業活動の促進やホームページを本格的に活用する等により民間を主体とした販売活動を行うことにします。

(5) 情報処理、メールサービス、清掃事業（トーチコロ青葉ワークセンター・トーチコロ青葉第二ワークセンター・トーチコロ青葉第三ワークセンター）

前年度において明らかとなった急激な事業体質の低下につきまして、民間の大手企業の協力や法人内部事業所の協力を得て早急にその改善を図ることとします。

特に生産における絶対量が伸び悩み、競争の激化によって受注単価が低迷していることから、より付加価値の高い受注をめざし、メールサービスに関連した情報処理業務の受注

組織図
一法人本部



につとめるとともに、受注におけるミスロスを無くすための受注システムの見直しを図ることにします。

また、高品質で安定した製品作りにつとめてユーザーの信頼を高め受注単価の向上を図ります。

利用者定員の充足以後、年々二次障害や障害の重度化が目立ち始めており、これらの対策として、安心して

て継続利用が可能となる制度の導入について検討を進めることとします。

清掃業務は合築施設全体および東村山工場での毎日の清掃を行うとともに、外部清掃を取り込める体制を整え、新たな職域の開拓に取り組むことにします。



(6) その他の事業

「アジア太平洋障害者の十年」の事業

各事業所の「アジア太平洋障害者の十年」推進委員会の活動と併せ、東京コロナー実行委員会の活動を行ないます。

障害者製作品の販売事業

身体障害者福祉法第25条に定めるわが国唯一の指定法人として葛飾福祉工場（製袋事業）およびデジタルメディアセンターを中心に事業を行ないます。また、指定法人としての法の趣旨が生かせるように法人全体の事業の中でも拡大発展の可能性を探ることとします。

なお、補助金を得ない事業であることから特別会計とはしないこととします。

常務理事・事務局長 勝又和夫

お知らせ

理事会・評議員会
3月11日に開催された第140回理事会及び第17回評議員会において、以下の議案が審議されすべて承認されました。

評議員の選任（欠員補充）

2000年度事業計画（予算案）

2000年度上半期

設備資金・借入金

諸規則・規程の改訂

従業員で役員を兼ねる者の

嘱託再雇用

施設長の解任および選任

新年度事業に伴う

所長級・施設長級人事

この結果、左記の両氏が選任されました。

評議員

武者 明彦 東村山工場所長

施設長（トーコロ青葉

第二ワークセンター）

金子 貢 トーコロ青葉

ワークセンター

総務課長

寄付金（1999年度）

片江美佐子様 一金 50万円也

斉藤 亀代様 一金 30万円也

鳥井 敏 様 一金 10万円也

有り難うございました。

大切に使用させていただきます。



アートバンク ギャラリー 46

くらぬき しん
蔵貫 信さん

障害者アートバンク

1986年設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家380余名、登録作品3800点余り、昨年1年間の使用実績は約330点、年間の作品応募は2000点を超えます。

「アニマルトレイン」

蔵貫 信

アニマルトレインはゴトゴト行くよ、運転手は、おサル。ソウさん、キリンさん、ライオンさん、ヒヨウさん、ワニさん、トリさんを乗せて、アニマルトレインはゴトゴト行くよ。

山を越え、川を渡り、長いトンネルを抜けて旅をする。僕だけの終わらない物語り。

楽しい仲間たちに囲まれて、汽車はどこまで行くのやら。輝きが一面に広がる海の見える丘、それとも星たちを散りばめた宇宙の彼方、暖かな春へと僕たちを運ぶ「アニマルトレイン」。

そんな事を考えながら描いていると、想像の中の彼らが勝手に物語を作っていくようで、「今度は何をしてみようか」、「今日は何処に行ってみようか」、「誰を登場させようか」と描く楽しさは尽きません。

アニマルトレインはもちろん、遊園地の定番「お猿の電車」から想像を膨らませて描きました。お客は個性的な動物たち…。

子供の頃から絵を描くことが大好きだった僕は、将来は漫画家になることを真剣に考えたことも…。

中学一年の時の怪我から車椅子の生活になり、大人になって結局僕に残ったものは絵を描くことだけだった…。

ただがむしゃらに毎日絵を描いていた時、障害者アートバンクと出会って、長く暗いトンネルの中に一条の光を見た心境でした。

今後一枚の作品に、僕の中のいろいろな物語りを色を重ねるように描いていきたいと思っています。

蔵貫信さんの描く世界は、可愛らしいキャラクターの登場によって、何処か懐かしい雰囲気そして安らぎ感をかもし出しています。

「なごみ」を必要とするこの慌ただしい現代。蔵貫さんに数多くのファンが居るのは当然の事かも知れません。

障害者アートバンク 水野多賀子

新年度組織体制

1、法人本部		理事長	調 一興
		常務理事	勝又 和夫
		常務理事	稲田 俊孝
		事務局長	勝又 和夫
2、		IT事業本部長	勝又 和夫
		印刷事業本部長	武者 明彦
3、		第一種社会福祉事業・第二種社会福祉事業	
		社会事業授産施設	社会就労センターコロニー中野
		身体障害者授産施設	コロニー印刷所
		身体障害者福祉工場	東京都葛飾福祉工場
		身体障害者授産施設	コロニー東村山印刷所
		身体障害者通所授産施設	社会就労センターコロニー東村山
		身体障害者福祉工場	東京都大田福祉工場
		身体障害者通所授産施設	トーコロ青葉ワークセンター
		知的障害者通所授産施設	トーコロ青葉第二ワークセンター
		精神障害者通所授産施設	トーコロ青葉第三ワークセンター
3、公益事業		知的障害者生活寮	国分寺戸倉寮
		デジタルメディアセンター（含障害者アートバンク）	事務局長 勝又 和夫
		トーコロ情報処理センター事業部	所長代理 戸原 一男
		トーコロ情報処理センター職能開発室	所長代理 鬼頭 克介
			所長代理 勝又 和夫

東京コロニーの ホームページ

東京コロニーには、トーコロ（法人）のホームページをはじめ、各事業所毎に特色あるホームページがあります。是非一度覗いてみて下さい。



メールボックス

トーコロ
home@tocolo.or.jp

お便り待っています。



中野工場
<http://www.tocolo.or.jp/nakano/>



東村山工場
<http://www.hig.tocolo.or.jp/>



トーコロ情報処理センター
<http://www.bekkoame.ne.jp/~tocolo/>



トーコロ
<http://www.tocolo.or.jp/>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.bekkoame.ne.jp/~aobawork/>



障害者アートバンク
<http://www.tocolo.or.jp/artbank/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.d1.dion.ne.jp/~tkf/>